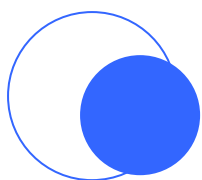


令和元年度事業報告



令和元年度事業報告

人と自然の博物館では、平成 14 年度から「中期目標」と「措置」を設けています。中期目標はいわば博物館の行動の指針となる大項目であり、それぞれに達成を目指すべき目標値（指標）が設定されています。さらに中期目標各項目の下位項目として「措置」を設定し、博物館活動の活性化に資する取組を数値で把握するよう努めています。

- 第 1 期中期目標 平成 14 年度（2002 年度）～18 年度（2006 年度）
- 第 2 期中期目標 平成 19 年度（2007 年度）～24 年度（2012 年度）
＊開館 20 周年にあたって策定した「ひとはく将来ビジョン」
を反映させるため期間を 1 年延長
- 第 3 期中期目標 平成 25 年度（2013 年度）～29 年度（2017 年度）
- 第 4 期中期目標 平成 30 年度（2018 年度）～令和 4 年度（2022 年度）

1 生涯学習支援

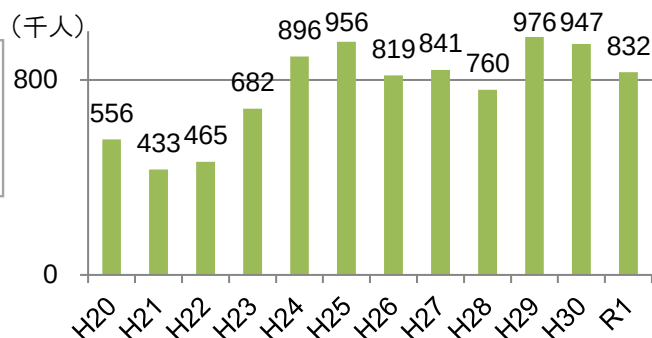
生涯学習課

「演示」手法を用いることで、あらゆる世代の知的好奇心を刺激し、多くの県民に「生涯を通じて学び続ける場」を提供します。

1 総利用者数

本館利用者数・連携施設利用者数・主催アウトリーチ事業・共催・協力事業の参加者数

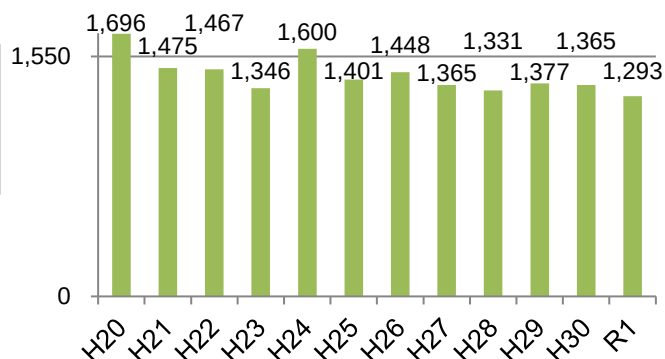
中期目標：800 千人/年
令和元年度：832 千人(104%)



2 生涯学習プログラム

館主催プログラム(一般セミナー＋オープンセミナー＋特注セミナー)の実施件数

中期目標：1,550 件/年
令和元年度：1,293 件(83%)



令和元年度の達成状況と自己評価

総ビジター数は 832 千人、前年度比 88%でした。このうち本館入館者は 163 千人、前年度比 100.5%、約 8 百人の増加になりました。令和元年度末の新型コロナウイルスに関わる休館措置のため、総ビジター数が減少したと考えられます。また、館主催プログラム数は、1293 件、前年度比 94.7%であり、今後もプログラム提供機会の更なる増加を目指します。

令和2年度の取組に向けて

来館者の興味・関心を引き出す内容の企画展、セミナーを重点的に開催するとともに、今後の社会状況に対応した新たな博物館の在り方を検討します。また、広報範囲と機会を拡充し、デジタルコンテンツや館主催プログラムなどの博物館の魅力を積極的に発信します。キャラバン・主催アウトリーチ事業については、本物に触れる体験や探究するおもしろさが伝わる工夫をし、さらなる充実を図ります。

2 人材育成と活躍の場の整備

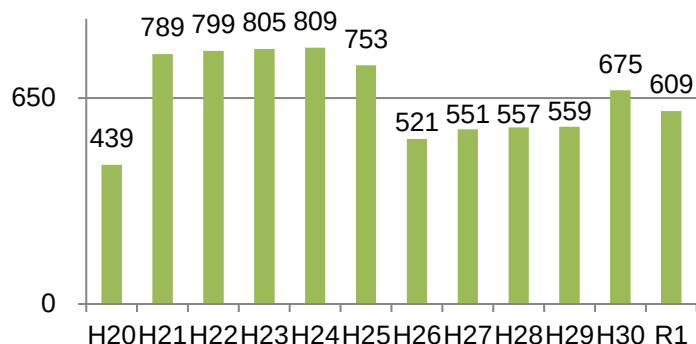
生涯学習
推進室

「担い手」の成長を支援し、活躍する「舞台」を提供します。

1 担い手の登録者数

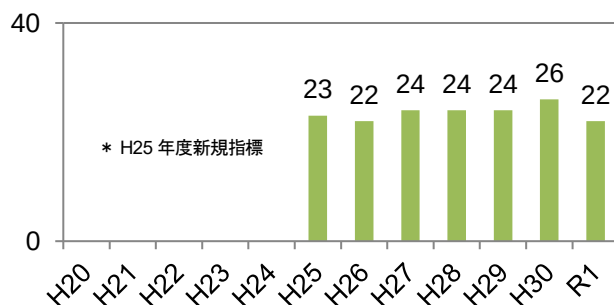
地域研究員、連携活動グループ、発掘・剖出ボランティアの登録者数

中期目標：650人
令和元年度：609人(94%)



2 連携活動グループ登録団体数

中期目標：40団体(R4まで)
令和元年度：22団体(55%)



令和元年度の達成状況と自己評価

今年度は昨年度と比べ、地域研究員と連携活動グループの数がやや減少し、目標値を大きく下回りました。これは、協力協定の5年間を過ぎた個人や団体に継続の意思を確認して整理した結果です。一方、発掘・剖出ボランティアは今年度も多くの方に登録いただき、目標値を大きく上回る方々が活動されています。また、地域研究員・連携活動グループ主催事業については、実施件数・実施日数・参加者数ともに目標値を上回り、活発な活動が行われています。第15回共生のひろばでは、口頭8件とポスター78件の発表があり、市民研究者同士の活発な交流を通じた担い手育成が行われました。

令和2年度の取組に向けて

これまで進めてきた取組を継続するとともに、さらなる地域研究員・連携活動グループの活躍の場づくりを通して、登録数の増加を促していきます。

3 連携・アウトリーチ活動

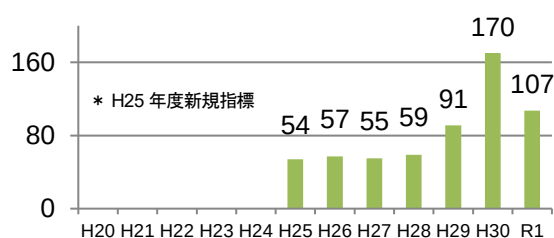
生涯学習
推進室

多様な主体と連携し、全県的に事業を展開します。

1 アウトリーチ事業

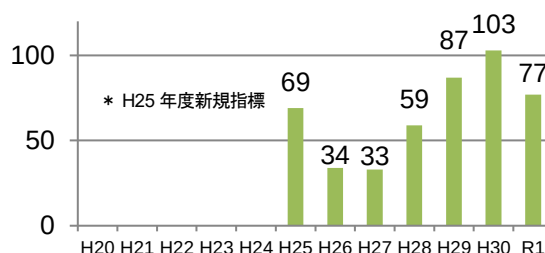
1-1. 主催アウトリーチ事業実施件数

中期目標：80 件/年
令和元年度：107 件(134%)



1-2. ゆめはく稼働日数

中期目標：50 日/年
令和元年度：77 日(154%)



1 アウトリーチ事業

1-3. 地域展開度

県内の旧市町区数に対する主催アウトリーチ事業実施市町区数の比率

中期目標：100%(R4 まで)
令和元年度：66%

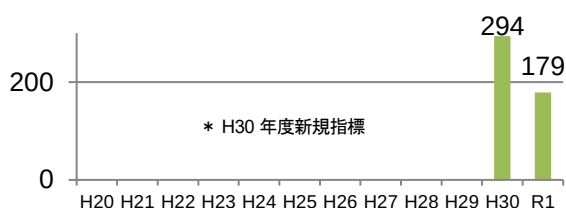


2 多様な主体との連携事業

2-1. 連携事業実施件数

主催アウトリーチ、主催・共催事業、協力事業、館内連携事業件数の合計

中期目標：200 件/年
令和元年度：179 件(90%)



令和元年度の達成状況と自己評価

主催アウトリーチ事業の実施件数は中期目標を上回りましたが、昨年度と比べると大きく減少しました。また、ゆめはく稼働日数と連携事業実施件数は、目標値を割り込みました。これらは、新型コロナウイルス感染予防のため、1 月以降に多くのイベントが自粛されたためです。昨年度から導入された指標である地域展開度では、5 カ年で県下すべての市町区でアウトリーチ事業を展開することを目標としており、2 年目に当たる令和元年度で 66%の市町区で実施することができました。

令和2年度の取組に向けて

新型コロナウイルス感染予防によるイベント等の自粛がいつまで続くか、見通せない状況です。今後の動向を見極めた上で、新年度の計画を見直す必要があります。

4-1 研究活動

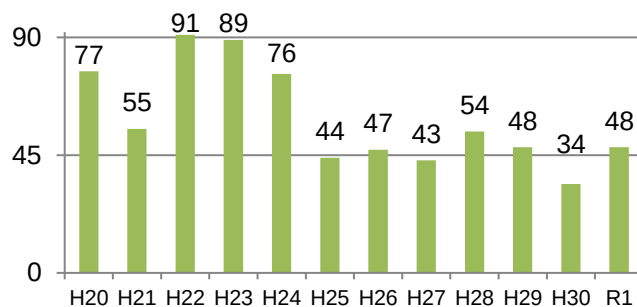
研究・
シンクタンク
推進室

すべての活動の基礎となる研究を引き続き精力的に遂行し、成果を還元します。

1 学術論文・専門図書数

学会等の査読を経て掲載された学術論文と専門図書数

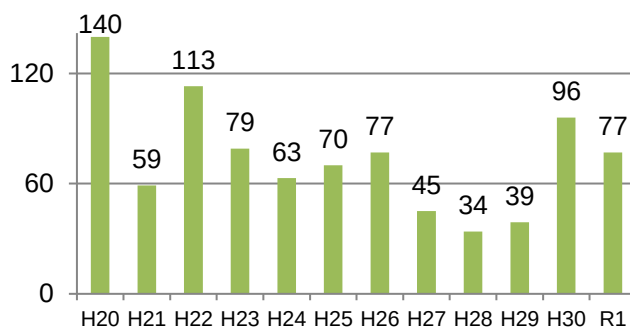
中期目標：45 本/年
令和元年度：48 本(107%)



2 一般向け図書・その他著作数

一般向け図書、雑誌・新聞等の著作数

中期目標：60 本/年
令和元年度：77 本(128%)



令和元年度の達成状況と自己評価

各指標とも平成30年度から目標値を高く設定しましたが、学術論文・専門図書数は新たな目標値を達成することができました。一般向け著書等の数は、HP等の電子媒体での成果を評価に入れ、さらに新聞等の広報誌での定期著作を増やすことにより、目標値を上回る成果を得ることができました。

令和2年度 of 取組に向けて

研究員セミナー等を通じて研究活動とその成果発信に対する研究員の意識向上を図ります。昨年度に引き続いて博物館 HP や新聞媒体等を活用し、来館者にとってわかりやすい調査・研究に関連した読み物を提供するように努めます。

4-2 資 料

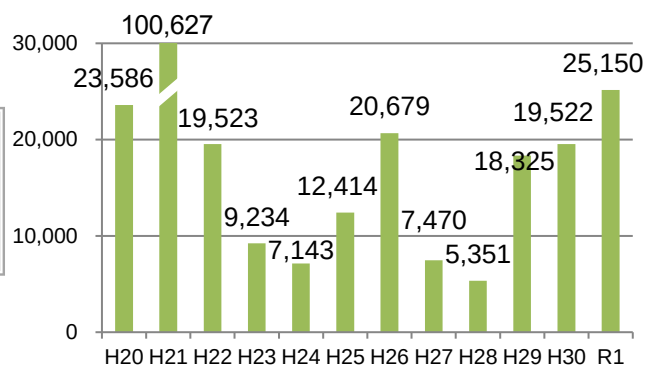
コレクション
管理・活用室

特色ある質の高い資料を収集・整理し、利活用を推進します。

1 資料の登録点数

「ひとく資料データベース」への年間登録件数

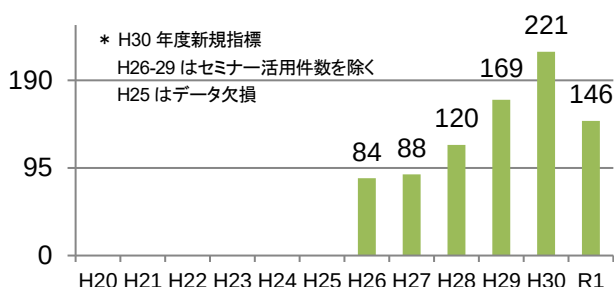
中 期 目 標：10,000 点/年
令和元年度：25,150 点(252%)



2 資料の利活用件数

研究活用件数、貸出件数、館内・館外展示件数、セミナー活用件数(H30 新規項目)、マルチメディア等データ提供件数の合計

中 期 目 標：95 件/年
令和元年度：146 件(154%)



令和元年度の達成状況と自己評価

AI を活用した標本画像データからのラベル自動読み取り技術の開発などによって、博物館資料データベース登録件数、館外データベース(GBIF)への登録ともに、目標を大幅に上回る成果を達成している。

令和2年度 of 取組に向けて

蓄積された標本資料の情報を広く公開していく環境整備を進めていく。また、標本情報を自動で読み取る技術を多種多様な博物館資料に拡張していく技術開発も合せて進めていきたい。さらには、現在、準備が進められている新収蔵庫建設に向けて、新たな標本資料の活用手法についても検討を開始する。

4-3 シンクタンク活動

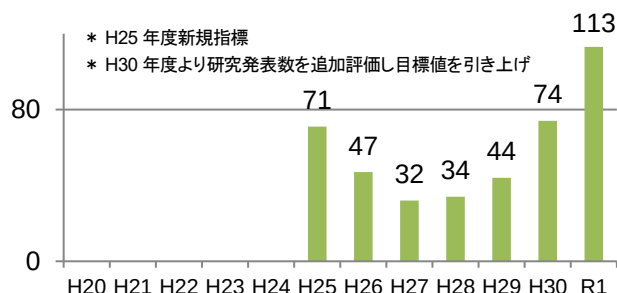
研究・
シンクタンク
推進室

専門性を活かして地域づくりをリードします。

1 県政課題関連論文・著作・研究発表数

県内を対象とした学術論文、著作および研究発表の件数の合計

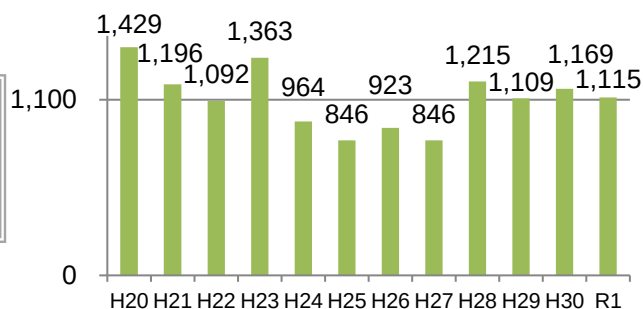
中期目標：80 件/年
令和元年度：113 本(141%)



2 県政・市町行政に対する貢献度

国・県・市町関連の委員会参画数および相談件数の合計

中期目標：1,100 件/年
令和元年度：1,115 件(101%)



令和元年度の達成状況と自己評価

県政課題関連論文等の件数では、目標値を超える成果を得られました。受託研究件数と県政・市町行政に対する貢献度も目標値を達成しており、シンクタンク活動は総じて順調に進められました。

令和2年度を取組に向けて

貢献できている県内地域に偏りがあるため、令和2年度も地域バランスを考慮し、広く県民に貢献できるシンクタンク活動を展開します。博物館への来館相談件数が減る一方、委員会参画数や受託研究数が増えすぎており、研究・普及教育活動など他の業務とのバランスを考慮した活動を進めます。

5 マーケティング・マネジメント

企画・調整室

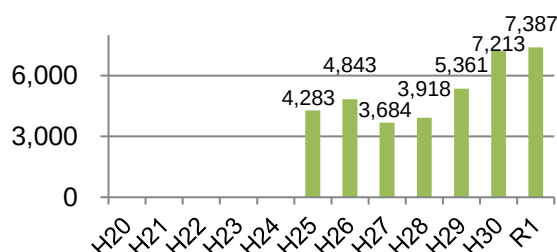
変化する社会状況に対応した効率的で健全な運営を行い、多くの県民に認知・利用される博物館を創出します。

1 外部資金による事業推進

1-1. 外部資金獲得金額

研究助成金、受託研究費、事業活動助成金の合計金額

中期目標：4,000 万円
令和元年度：7,387 万円(185%)

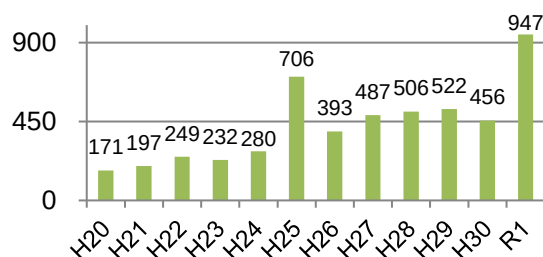


2 情報発信

2-1. HP アクセス件数

当館ホームページへのアクセス件数

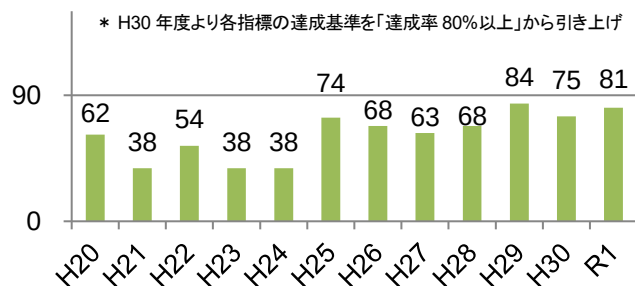
中期目標：450 件/年
令和元年度：947 件(210%)



3 中期目標の達成度

当該指標以外の総指標数 16 に対する「達成率 90%以上の指標数」の比率

中期目標：90%
令和元年度：81%(90%)

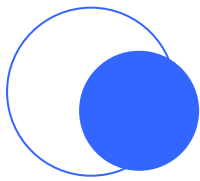


令和元年度の達成状況と自己評価

外部資金の獲得金額と当館ホームページへのアクセス件数はいずれも目標値を大きく上回りました。また、総指標数 16 に対する「達成率 90%以上の指標数」の比率は 81%であり、目標値である 90%に対する比率(達成度)は 90%でした。16 の指標のうち 2 つの指標(連携活動グループ登録団体数と地域展開度)は 5 年目の達成をめざす指標なので、これらを除くと令和元年度の中期目標はほぼ達成できたといえます。

令和2年度への取組に向けて

令和2年度には新たな事業を複数実施すると共に既存事業の強化・拡充を図ります。新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度と同じような実績をあげることは困難な状況ですが、できるだけ多くの実績をあげることができるよう職員一丸となって努力する方針です。



タスクフォース事業

タスクフォース(組織群)について

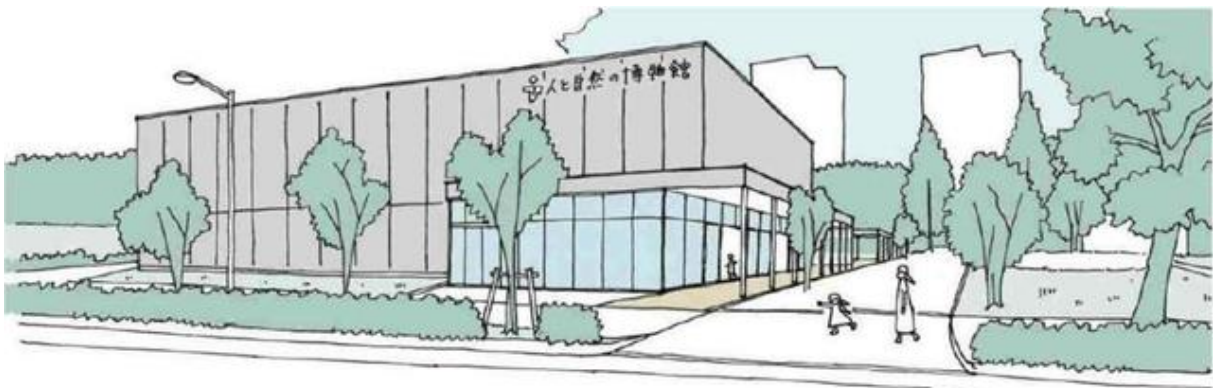
従来の組織群とは別に、短期の課題を達成するために平成 20 年度からタスクフォース制度を導入しました。各タスクフォースはリーダー・サブリーダー・メンバーで構成し、課題の達成状況に応じて年度途中でも人員は変更可能です。また新たなタスクフォースを発足できるようにしています。

■ ビジョン実現タスクフォース 令和元年度の主な事業

(1) 新収蔵庫棟(コレクションナリウム)の実現

平成 30 年度に策定した『ひょうご五国の宝箱 新収蔵庫棟基本構想』を元にして、博物館の関係者用駐車場の敷地に、展示ギャラリーを併設した新収蔵庫棟を新設することが決まった。延床面積 約 1400 m²、うち収蔵スペース約 800 m²を見込んでいる。開館 30 周年を迎える令和 4 年 10 月の運用開始を目指す。

- ・施設名称は、「コレクション」と「～にまつわる場所」を意味する接尾語「-arium (アリウム)」を掛けた造語「コレクションナリウム」を予定している。
- ・1 階にはガラス張りのギャラリーやワークルूमを備える。収蔵されている貴重な標本資料の展示や、それらにまつわる企画展示に加え、セミナーや体験学習ができるよう設計を進める。併設する広場でも体験学習や各種イベントを行い、フラワータウンの顔として地域活性化にも貢献できる運用を目指す。
- ・2 階には頒栄短期大学から寄贈された 25 万点の植物標本コレクションを中心に収蔵され、研究やシンクタンク事業に継続的に活用される。1 階に収蔵される標本を含めて、研究者や地域研究員、連携活動グループ、民間企業や NPO 等にも、様々な形で標本の保存と活用に関わっていただく環境を整備する。



(画像：兵庫県教育委員会発表資料より)

(2) 新収蔵庫棟(コレクションナリウム)の設計および運用に関する資料収集

国内で近年整備された収蔵庫に関する資料収集および視察を行い、長期に渡る資料保存に向けた知見をまとめ、基本設計に反映した。加えて整備後の運用に関する国内外の資料収集も行い、展示や地域貢献も行いつつ、効率的に資料保存を行う運用方針をまとめた。

(ビジョン実現タスクフォース 赤澤宏樹・三橋弘宗・高野温子・布野隆之・福本優)

■ 恐竜タスクフォース 令和元年度の主な事業

(1) 篠山層群化石を活用した地域活性化を目指す人材育成システムの構築

篠山層群から産出する化石の調査・研究をさらに推進し、その成果を活用するため、人材育成（発掘・剖出・普及教育）の体制を強化する。今後 10 年間で持続可能な人材育成循環システムの構築をめざす。最終的には、ボランティア人材の登録 100 名体制を目標に、将来的に持続可能な人材育成システムの基盤をつくる。その基盤づくりに向けて、以下の事業を実施した。

1－1. 人材育成システムの構築に向けた基盤づくり

「ひとく化石専門指導員」の認定制度を設け、人材育成に取り組んでいる。また、平成 30 年 1 月より「化石剖出ボランティア」の受け入れを開始した。認定した化石専門指導員は 16 名、剖出ボランティア登録は 24 名（R.2.3 月現在）。令和 2 年 1 月よりボランティア人材への学習機会の提供を目的として、ちがくレターの配信を開始した。

1－2. 市民参加型発掘調査

ひとく化石専門指導員を認定するための実地研修として、卵化石密集層の調査や、川代トンネル岩砕（篠山層群）を用いた石割調査を実施した。平成 29 年 10 月からこれまでに行われた調査の参加者はのべ 962 名。石割ボランティアの登録者数は 98 名（R.2.3 月現在）。

(2) 研究

丹波竜に代表される篠山層群産の脊椎動物化石の研究を中心に、国内外の大学・研究機関等と協働して推進し、将来の研究拠点形成を視野に、研究実績の蓄積や地域づくり活動支援の強化を進める。

- ・研究発表 6 件（日本古生物学会、日本爬虫両生類学会）。
- ・記者発表 1 件「篠山層群の恐竜・鳥類卵化石発掘調査成果報告と緊急速報展の実施について」（平成 31 年 4 月）

(3) 普及事業

恐竜化石等の調査や研究内容をセミナーの開催や展示等を通じて広く公開する。

3－1. 展示

- ・緊急速報展「篠山層群恐竜・鳥類卵化石発掘調査の成果報告」（4/27-6/2）
- ・「化石の日」制定 1 周年記念展示「アワジの名がついたエビ類化石」（11/2-1/5）
- ・ミニ企画展「異常巻アンモナイト、ノストセラス大集合」（2/12-4/5）
- ・その他展示 4 件（共催：丹波竜化石工房 2、協力：御船町恐竜博物館 1、国営明石海峡公園 1、南あわじ地学の会 1、ミュージアムパーク 茨城県自然博物館 1）

(4) 地域支援

平成 22 年度に締結した「篠山層群における恐竜・ほ乳類化石等に関する基本協定」にもとづき、地域支援を展開している。平成 27 年度から丹波県民局が主導する「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム」事業が始動し、その活動を支援している。

4－1. 丹波竜フェスタの開催（共催）

丹波市と共催で、丹波竜フェスタの一般向け講演会「日本の恐竜を語る！」（12/1）を開催した。参加者数 400 人（フェスタ来場者数 2,600 人）。

4－2. 各種事業への参画

- ・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム会議 5 回（4/16, 6/25, 8/19, 12/6, 2/14）

（恐竜タスクフォース 佐藤裕司・太田英利・三枝春生・池田忠広・加藤茂弘・半田久美子・久保田克博・生野賢司・田中公教）

■ Kids タスクフォース 令和元年度の主な事業

(1) ふるさと兵庫こども環境体験推進事業（ひょうごエコロコプロジェクト）の実施

ひとはくでは、兵庫県農政環境部環境局環境政策課と連携し、県内の全幼稚園・保育所・認定こども園等（約1,500園）を対象に、乳幼児期のこどもたちへの環境体験機会の創出と、環境体験が継続的に実施できる仕組みの構築を目指し、「ふるさと兵庫こども環境体験推進事業（ひょうごエコロコプロジェクト）」を令和元年度より開始した。この事業の中核を担う専門人材として「こども環境体験コーディネーター」（1名）の職種を新たに設置し以下の事業を展開した。

1-1. 環境体験事業の実施

- ・しぜんたいけん（派遣型プログラム）実施園数：40園

自然の専門家である研究員が園に出かけて、園庭や近隣公園等の動植物を用いた自然体験プログラムをこどもたちへ提供。

- ・しぜんえんそく（遠足受入型プログラム）実施園数：23園

自然体験を行う専門人材が、県立公園等で園の遠足を受け入れ、虫やどんぐりなどを用いた自然体験プログラムをこどもたちへ提供。

- ・親子参加型の公園プログラム 実施回数：9回

県立公園等において、親子で参加する自然体験を提供。

1-2. 人材育成事業の実施

- ・エコスタディ☆フェスの開催 参加者：61名

現役の幼稚園教諭や保育士等へ園での自然体験実践につなげるための仲間づくりとノウハウを学ぶ機会を提供するイベントを開催。

- ・エコロコサポーターの育成 サポーター数：のべ名106名

研究員とともに園児の自然体験をサポートする人材（学生等）を育成。

- ・園の先生向けの研修 実施回数：20回

園の先生へ園庭や近隣公園の自然を活用する方法などを提供。

1-3. コンテンツ開発

- ・自園プログラムの開発

各園での取り組みを促進するプログラム集「エコロコレクション～身近な自然と遊ぶ体験アイデア集～」や貸出コンテンツ等の制作。

- ・ホームページやMLの開設

ネットワークを拡げていくための専用ウェブサイトや園の先生の会員ML等の開設。

(2) Kids キャラバンの実施

移動博物館車「ゆめはく」（2tトラック）を活用してのキャラバン事業（アウトリーチ活動）として、幼稚園や保育所、認定こども園などの園を訪問し、美麗昆虫標本や恐竜の頭骨レプリカ、昆虫拡大模型などの展示、化石などの実物標本に触る体験、拡大装置での観察、昆虫や恐竜のキューブパズル遊びなどの様々なプログラムを行った。今年度は合計19園で実施した。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため2020年2月下旬～3月に予定していた6園分を中止した。

(3) Kids サンデーの実施

月の第1日曜日を「Kids サンデー」と呼び、小さな子どもとその家族向けのプログラムを今年度は10回（4/7、5/5、6/2、7/7、8/4、9/1、10/6、11/3、12/1、1/5）実施した。なお、2020年3月も実施予定にしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

（Kids タスクフォース 小舘誓治・八木 剛・半田久美子・櫻井麗賀・高瀬優子）

■ 展示更新タスクフォース 令和元年度の主な事業

(1) インドアパーク・ミュージアム構想案の作成

常設展示の老朽化など博物館の従来の課題と、立地（フラワータウン）で顕在化しているオールドニュータウン化という地域課題の解消に向け、「インドアパーク・ミュージアム」構想案を作成し、重要施策として提出した。インドアパーク・ミュージアムは、0歳児の乳幼児から高齢者まで幅広い世代が気軽に利用できる、遊びと学びが一体化した全天候型の室内公園空間である。具体的には、ホロンピアホールおよび本館1階常設展示室のスペースに展示型、滞留型、体験型の空間を新たに作り、セミナーやワークショップを実施することで、生涯学習拠点・体験学習拠点としての機能拡充とニュータウンの再活性化を目指す。

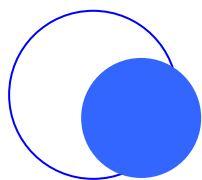
(2) 本館リニューアル構想の検討および国内外先端施設の視察

上記のインドアパーク・ミュージアムを含む本館全体のリニューアル構想について議論し、「つどう」「かんじる」「みつめる」「つなぐ」の4つの視点から「来館者が主役になる博物館」をコンセプトに据えた素案の要点をまとめた。また最新の知見を得るために、京都で開催されたICOMへ参加したほか、ハンズオン/ボディオン展示、映像展示、公園利用、プレイルーム、保育、観光、まちづくりなどに関連する国内外先端施設の視察・見学を行った。今後、視察成果の反映、勉強会の開催、館内でのワークショップなどを通じ、社会潮流を踏まえた背景整理や機能・空間の具体的検討も進め、来年度中の素案作成を目指す。

(3) えんがわミュージアム事業の企画・準備

インドアパーク・ミュージアムに係るソフト先行事業として、「えんがわミュージアム」を企画し、来年度実施するための準備を進めた。本事業は、公園緑地と隣接する博物館の縁側の空間（1階ピロティ、ホワイエ周辺）に可変式の滞留空間を試行的・定期的に整備し、採集・観察道具の貸し出しや、緑地の自然・博物館資料を活用した参加型・体験型プログラム等を実施するもので、幅広い世代への自然体験や環境学習機会の提供、身近な自然や博物館利用に対する興味関心の喚起、博物館の体験型学習拠点および遊び・くつろぎ・交流の場としての機能拡充と発信などを目的とする。

（展示更新タスクフォース 黒田有寿茂・布野隆之・大平和弘・久保田克博・奥井かおり・中濱直之）



プロジェクト

ひとはくでは、2002年度の「新展開」以後、館長辞令による館独自の職制を導入し、研究員が事業部やタスクフォースを兼務する体制で事業を推進してきました。さらに2012年度に「ひとはく将来ビジョン」をとりまとめ、組織体制・マネジメントのあり方の一つとして、「適時チームビルディングを行う柔軟な組織体制」を掲げました。変化の激しい社会情勢に柔軟に対応するため、課題やミッションに合わせ、チームづくりや事業等のリストラクチャリングをフレキシブルに行うことができる仕組みが必要であり、2014年度より、「プロジェクト制」の導入を開始しました。これは、研究員になじみのある研究プロジェクトの方法を、事業等にも適用したもので、各研究員が自由に新規に立ち上げることができます。構成員は代表者、分担者、協力者で、ひとはくの職員に限らず、外部と協力して行うことができます。また外部資金の導入も積極的に進めています。ひとはくの活動を網羅する内容になっており、国際交流事業やシンクタンク、生涯学習プログラム、収蔵資料、学術研究など多岐にわたっています。ひとはくでは独自に中期目標を設定し定量的な指標を用いて評価を行っていますが、プロジェクトでは、定量的に把握できない質的なパフォーマンスを表しています。2019年度は、下記83件のプロジェクトを展開しています。

■ 2019年度のプロジェクト(計83件)

文科省博物館ネットワークにおけるレガシー事業	2019年京都で開催されるICOMに向け、全国規模での自然史博物館ネットワークの構築をめざし、①ICOM 京都大会期間中の京町屋における展示会開催、②自然史標本の新たな活用と保存に対する提案、③関連シンポジウムの開催。自然史資料への理解を深め、収蔵庫増設の機運を高めることを目的とする。また、同時に、収蔵管理の新たな技法や国内の標本管理の標準化モデルの構築等を行う。
頌栄短期大学標本の登録・整理	2012年に寄贈された当該コレクションは貴重大コレクションであるが、生物系収容庫の収納可能な量をはるかに超えている。順次データ入力と収蔵庫への配架を進めているが、新収蔵庫建設にあわせて博物館の植物コレクションと一体化し、閲覧の便宜をはかるとともに、標本デジタル化を推進する。
博物館国際交流事業の推進	フランスアペロン県ミクロポリス館やマレーシア国サバ大学熱帯保全研究所をはじめ、世界各国の博物館施設等の交流活動を推進し、海外博物館施設の先進事例等の収集に努める。
国際交流事業 高校生のための生き物体験ツアーin 台湾	台北市立動物園の全面協力のもと、台湾で高校生（日本人20名、台湾人20名）による生物調査を行い、成果を使った展示をひとはくで行う。
キッピー山プロジェクト	三田市有馬富士自然学習センタープログラム運営事業の実施。ひとはくの機能拡張、新規事業開発に資する試行を含む。
鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録に向けた検討支援	鳴門海峡の渦潮の世界自然遺産登録に向けた学術的支援、および枠組みづくり、体制づくり等の支援をおこなう。
うずしお科学館運営支援	リニューアルオープンした南あわじ市大鳴門協記念館内のうずしお科学館の運営計画策定や運営体制、ネットワークづくり等の支援を行う。
地域コミュニティと連携したため池法面等でのタクティカルプレイスメイキング	いなみ野ため池ミュージアムに位置付けられる東播地域のため池を事例に、地域内外のコミュニティづくりを通して、ため池法面等を活用したコミュニティガーデンの戦術的な空間整備・運営を試行する。
但馬牛博物館運営支援	リニューアルオープンした但馬牛博物館の博物館活動、運営・マネジメント計画・体制づくりに関する支援を行う。
ありまふじ休養ゾーン活性化プロジェクト	有馬富士公園風のミュージアムを活用したキャラバン事業を企画・実施する。
ふるさと兵庫こども環境体験推進事業への支援	乳幼児期の環境学習を推進する「ふるさと兵庫こども環境体験推進事業（エコロコ事業）」に参画する。事業全体のマネジメント支援のほか、園庭や公園等での自然体験プログラム開発等に関する支援を行う。
兵庫県における特定外来生物対策の実践型研究と政策提言および人材育成の推進	ヒアリ、クビアカツヤカミキリ、ツメガエルなどの特定外来生物、要注意外来生物に指定されている動物を中心として対応し、侵入の原理と影響を研究活動を通じて解明し、社会的背景と実現可能な対策を含めた研究を行う。これらの成果は、環境省をはじめ行政機関に提案し、社会実装することを目的とする。また、ホームページや展示、シンポジウム等を通じて、行政等と連携して人材育成や普及教育を行う。
加東市との連携と環境学習事業への支援	協力協定にもとづく環境学習事業への支援、とくに「加東市ノーベル大賞」の審査と講評。その他、学校教育との連携による環境学習プログラム開発など。

2017 年～2019 年までの展示計画 2 コレクション（収蔵）展示	新館建設あるいは改修・収蔵庫増築に向け、コレクション展示を年 1 回、夏季に実施する。2019 年は「石ころズラリ ～美しい鉱物から珍しい岩石まで～」を実施する。
2017 年～2019 年までの展示計画 1 展示特別企画	展示特別企画はコレクション展と同じく大型の企画展で、年 1 回秋冬期に行われる。2019 年は「ひょうごのレッドリスト展 ～哺乳類・爬虫類・両生類・魚類～」を実施する。
館内の省エネ化と壊れてる箇所の修理プロジェクト	2012 年度から館内の故障箇所や施設維持の運用改善について直営にて修理対応してきた。その節約効果（省エネ）は、年間で約 100 万円以上になるほか、雨漏りの修理、緊急措置、漏電箇所の対応、冷凍庫の修理メンテナンス、異臭対策など、実践ならびに技術的な支援を行った。実施にあたっては、総務課およびフロアスタッフ、設備、清掃、警備と連携して問題解決に努める。2019 年度は、壁面の崩落修繕、雨漏り対策、収蔵庫の雨漏り遮水、照明の LED 化と自動制御、窓の断熱性能向上、展示機器や什器の修復、エレベーターホールの漏水破損対策とポンプアップ、展示室内の空気循環を行う。
ひとはくのハチ類コレクション整備推進プロジェクト	ひとはくのハチ類コレクションはタイプ標本を含む日本・アジア各地の標本からなり、当館を特徴づけるコレクションになっている。さらに、2015 年度には 4 万点におよぶ日本産カリバチ・アナバチ全種オス・メス標本の寄贈を受けた（羽田コレクション）。本プロジェクトでは、当館のハチ類コレクションの整備とさらなる充実・活用を推進する。また、公開可能な標本データについては、当館 HP や GBIF 等で公開していく。
Kids サンデープロジェクト	月の第 1 日曜日に子ども向けあるいは家族向けのイベント等を行う「Kids サンデー」を実施する（年間 9 回程度を予定）。また児童館、幼稚園、高齢者大学等と連携しながらプログラム開発を行う。
ミュージアムキッズ！プロジェクト	こどもひかりプロジェクトの支援と連携。全国のさまざまな分野のミュージアムとともに、幼児～低学年向けプログラムの開発提供、ユーススタッフ（大学生）の共同育成、ジャーナルの刊行等。
Kids キャラバン	幼稚園・保育所への「Kids キャラバン」をはじめ、文教施設や地域団体からの要望に応じ、展示や体験型プログラムのパッケージを、移動博物館車「ゆめはく」を活用して、博物館への来館が困難な地域へ届ける活動のコーディネートを行う。
共生のひろば	当館の将来ビジョンの根幹となる「創造と共生の舞台・兵庫で参画する皆さんが共演する生涯学習院」を具現化する当館が 11 年間継続してきた中核事業であり、昨年度は年間でもっとも多くの入館者数、参加者数を記録。ひとはく地域研究員やひとはく連携活動グループをはじめ、地域の自然・環境・文化を自ら学び伝える活動を行っている方々が、お互いの活動を知り、活動の質をあげ、新たな展開のヒントを得る場としての「共生のひろば」を継続する。
博物館研究紀要「人と自然 Humans and Nature」の編集・発行	博物館紀要の原稿募集・審査・編集・発行を行う（印刷は行わず、電子媒体のみとする）。
兵庫県下市町の生物多様性地域戦略の策定・推進を目的とした行政支援	年 1 回程度の市町の生物多様性施策担当者を対象とした情報交換会を開催し、生物多様性施策担当者が博物館や近隣市町への相談や事例把握しやすい環境を整え、そのことによって、地域戦略策定・推進に貢献する。また生物多様性地域戦略を策定した市町に対して委員等を派遣して、戦略推進に対するアドバイスをを行う。またこれから戦略を策定しようとする市町の相談を積極的に行うとともに、戦略の策定の必要性を働きかける。
棚倉町里山再生・活用プロジェクト	福島県棚倉町で里山の保全・活用に向けた各種の取り組みを行う。
ジーンバンク事業の推進	生物多様性保全を目的として、絶滅危惧植物等の危険回避、緊急避難、系統保存、増殖および種子保存を行う。また、生物多様性に配慮した植生・生態系の創出を目的として、地域性種苗を用いた公共用地・企業用地等における緑地形成支援を行う。また、これらジーンバンク事業の実現に必要な調査・研究、技術開発を進めるほか、ジーンファーム見学会等の実施を通じ環境学習・生涯学習支援を行う。
博物館情報システムの開発とシステム整備	情報システム更新によって整備されたシステムの円滑な運用を図るために、館内各課との調整を図り、より扱いやすいシステムの整備開発、保守につとめる。主には、HP の改訂、セミナー受講者システム、館内展示端末（4F）、館報データ等の集計、名簿管理について、従来ルールを引き継ぐ形で簡便化と自動化を図る。これまで整備した情報システムに関する講習会の開催、視察対応、館員からの各種質問対応、ホームページの構成、また、次期システム更新時の効果的な整備手法の開発や入館者やセミナー受講者等の既存情報を活用したマーケティング分析資料の作成を行う。
地学系収蔵庫の資料整理の推進	地学系収蔵庫の収蔵資料について、資料整理とデータベースの構築を推進し、コレクションの管理と利活用促進を行う。
琉球列島を中心とした熱帯～温帯アジアの爬虫・両生類相の多様性と自然史に関する研究	琉球列島を中心に熱帯アジアから日本本土にかけての爬虫両生類相の多様性・固有性・自然史をテーマに、その現状の把握、そして背景となる地史・環境履歴の解明を目指す。
ブータンの爬虫・両生類の多様性に関する調査研究	昨年に引き続き、長きにわたる鎖国政策の影響で知見の少ないブータン王国の爬虫・両生類そうに関する調査研究を進める。
生物多様性創出機構の解明	アリ擬態現象が鋳型となって創出されるアリ擬態クモ類の種多様性の調査研究を行い、生物間関係が織りなす生物多様性創出維持機構を解明する。
管住生ハチ類を指標とする里山環境の保全研究	里地里山を生息環境とするハチ類の多様性や生態の調査研究を行い、里山環境保全に貢献する。
昆虫標本の展示手法の研究	昆虫標本を展示活用する際に、多くの来館者に自然・生物の美しさを効果的に魅せる工夫の開発研究を行い、昆虫学や標本の重要性をより良く伝える手法の確立を目指す。
シソ科アキギリ属の送粉者調査と繁殖干渉	日本産アキギリ属を例に、近縁種間でどの程度の繁殖干渉が起こっているかどうかを明らかにする。合わせて遺伝解析も実施する。

兵庫県産植物を中心とした植物分類学的研究	博物館活動の基盤となる資料収集の強化、及び県産の絶滅危惧種、希少種を対象とした繁殖様式、フェノロジー、系統解析等、保全に資する基礎生物学的研究を実施する。
兵庫の絶滅危惧種オチフジの集団解析	オチフジは絶滅危惧Ⅱ類の希少植物である。日本固有と考えられてきたが、最近中国からオチフジが見つかったという論文が出版された。本当に日本と中国のオチフジは同種で良いのか、形態解析・遺伝解析と系統解析等でアプローチする。
アマナの遺伝解析	日本と中国に分布が知られるアマナと同属ヒロハノアマナについて、その種分化の過程を系統解析により明らかにする。
植物標本デジタル化の促進	植物標本のデータ入力作業の省力化効率化を目指し、標本画像の取り込み、画像からラベルデータの自動抽出およびDB入力の自動化を目指す。今年度はDB入力ボランティアを募り、OCR読み取りシステムのブラッシュアップを図る。
貝殻に住む矮小シクリッドが並行進化した遺伝機構の解明	タンガニイカ湖における潜水調査・資料採集、および日本での分子解析を行うことにより、シクリッドの <i>Telmatochromis temporalis</i> 矮小型が並行進化した遺伝機構を解明する。
御影高校における博物館活用型の学習プログラム構築	県立御影高校の環境科学部および課題研究やグループ学習の授業を通じて、六甲山のキノコに関する基礎研究を行い、その成果をもとに当館での展示会やキャラバン（御影クラッセ、森林植物園等）を開催する。また、総合学習では、近隣を流れる石屋川に生息するブラナリアを活用した教育プログラム開発を行う。
自然史標本の汎用化と収蔵技法の標準化と体系構築	自然史博物館の標本管理と保存、活用の技法は、1990年以降、あるいはもっと以前の段階から殆ど進展していない。データ整備や収納、デジタル技術、薬品処理や保存科学の方法論は大きく進展しているが、これらの知見が反映されていない。本プロジェクトでは、最新の科学的な知見を取り入れて、新たな活用や効率的な整備方法について、現代様式での収蔵技法の体系を、全国の博物館ネットワークを通じて構築する。
水分かれ資料館のリニューアルと運営支援	丹波市の水分かれ資料館のリニューアルにあたって、展示の更新やコンテンツ製作、運営面について、全面的に支援し、地域づくりの拠点となる施設整備を行う。
「ドリームスタジオ・フェスタ」プロジェクト	NPO法人人と自然の会が主催する「ドリームスタジオ・スペシャル」の開催を支援する。本事業は、集客を目的とする大型イベントではない。自然環境や標本を活用した参加型プログラムを提供することにより、来館者の好奇心を育むと共に、博物館に対する満足度の向上を図ることを目的とする。開催時間は2時間。来館者は500人以上。来館者全員が1つ以上のプログラムに参加できるよう準備を進める。
有馬富士公園 人材育成	有馬富士公園をフィールドにした地域づくり支援や人材育成プログラムを実施する。
ミツカンよかわピオトープ倶楽部支援	ミツカンよかわピオトープ倶楽部によるピオトープを活用した事業支援（ピオトープに関わる啓発・人づくり等）を行う。
尼崎 21 世紀の森構想の推進支援	兵庫県の重要施策の1つである尼崎 21 世紀の森構想の推進に向けて、新たな 10 年のキックオフから人材養成、制度設計に至る推進支援を包括的に行う。
西武庫公園再生支援	兵庫県から尼崎市に移管され、尼崎市緑の基本計画においてリーディングプロジェクトに位置づけられた西武庫公園において、地域住民によるネットワークの運営支援を行う。
三田市地域計画策定支援	三田市内のまちづくり協議会にて地域計画を策定するための、行政支援および地域団体支援を行う。
兵庫県下の提供公園の実態把握と改善	自治体の大きな負担となっている提供公園について、兵庫県下の自治体における実態を把握し、改善方を提案する。
官民市民協働型の街路樹管理の提案	街路樹の官民市民協働型の管理に向けて、現状把握から各種主体の意向、街路樹の状況を把握し、改善方を提案する。
赤穂海浜公園の魅力アップ支援	県政課題である県立赤穂海浜公園の魅力アップに向けて、助言や事業協力を行う。
北播磨地域の魅力アップ支援	北播磨県民局の施策推進に協力しつつ、北播磨の地域資源を活用した地域づくりに取り組む。
宮塚公園を中心とした芦屋市中心市街地の活性化	リニューアルした宮塚公園のソフト展開、および中心市街地のブランディングについて支援する。
古写真を中心とした環境系資料活用による地域支援	古写真による地域の原風景の抽出や地域マネジメントへの活用方策、収蔵資料展での展示公開やセミナー等への活用方策検討のほか、館内外における実践を通し、活用プログラムの開発を行う。
近畿・中国・四国のランドスケープ遺産インベントリーの作成	ランドスケープ遺産（次世代に残したい風景や優れた造園空間）の保全と継承を図ることを目的に、日本造園学会連携のもと、それらの記録収集・登録作業を進める。また、兵庫県版レッドリストの自然景観として公表するなど、県下の景観の学術的価値の顕在化に寄与するとともに、館の資料収集・公開活用にも大いに貢献する。
パークマネジメントの社会実装に向けた行政支援	有馬富士公園でのマネジメントの運用、企画等の支援、芦屋市「宮塚公園」、吹田市「千里南公園」でのパークマネジメント組織立ち上げ支援など具体的取り組みや、公園・パークマネジメント等に関する連続セミナーによる行政、民間との情報交換の場の運営を通じて、様々な規模でのパークマネジメントの社会実装に向けた行政の取り組みを支援する。
「そとはく」による、持続性のあるニュータウン再生への取り組み	博物館周辺の屋外空間を活用する「そとはく」での活動と国内外ニュータウンの再生に関わる研究を通じて、フラワータウンを博物館のある持続性のある街としての再生に貢献する。
北摂里山博物館構想の支援	「北摂里山博物館構想」の推進に向けた各種取り組みを支援し、北摂地域の生物多様性保全と地域振興を図る。具体的には、植物・植生の保全・管理手法の開発・普及、自治体への政策提言、自治体や市民団体、企業などの活動支援、児童生徒や地域住民の環境学習支援、生物多様性保全の担い手の育成などを行う。

三田市皿池湿原の保全	三田市の皿池湿原は兵庫県版レッドデータブックの A ランクに指定されている。しかし、この湿原では様々な問題（遷移の進行に伴うヌマガヤ群落や木本群落の拡大、周辺部に広がる放置里山林の照葉樹林化など）が発生しており、今後の生物多様性の減少が懸念されている。三田市と連携してこの湿原の保全を図る。
たつの市鶏籠山の照葉樹林の保全	たつの市鶏籠山の照葉樹林は兵庫県版レッドデータブックの B ランクに指定されている。しかし、鶏籠山はシカの生息密度が非常に高く、シカの食害による照葉樹林の衰退が大きな問題となっている。林野庁と連携してこの樹林の保全を図る。
兵庫県における未確認植物群落の実態把握	兵庫県にはまだ調査がほとんど行われていない植物群落が数多く存在する。また、里山の管理放棄やシカの増加などに伴って、過去に例のない新たな群落が各地でみられるようになってきた。このような未確認群落の実態を把握するための調査を実施し、その成果を随時論文にまとめて公表する。
都市公園と里山林の植物相の保全と活用	都市公園と里山林の植物相を明らかにし、貴重種の保全および自然観察に有用な植物の活用やガイドの作成を行う。
丹波地域の貴重植物の探索と保全活動	丹波地域の貴重種を探索し、保護が必要な場合は保全策を講じ、一般公開などにより地域の魅力を村おこしにつなげる。
乾燥種子標本の収集・活用	開館当初から収集・保管してきた乾燥種子標本を今後も適切に保管すると共に、展示やセミナー、キャラバン事業などでの標本の活用を図る。また、収集活動の継続や寄贈の促進、他館との標本交換などを行うことで標本のさらなる充実化を図る。
植生資料データベースの構築・公開	神戸大学発達科学部植生研究室(武田義明教授)や杉田氏より寄贈された 1960 年代以降に調査された国内各地の植生調査資料をデジタル化、データベース化し過去の植生の変遷や地域の植生の特徴を理解するための基礎資料として活用する。WEB 上での公開も検討し、広く研究者、専門家が利用できるデータベースをめざす。
植物・植生映像資料データベースの充実化と有効活用	開館当初より収集し、データベース化している植物・植生映像資料を適正に保管するとともに、映像資料の寄贈の受入や館員による収集映像の追加によりデータベースを充実化し、過去の植生の変遷や地域の植生の特徴を理解するための基礎資料として活用する。WEB 上での公開も検討し研究者、専門家だけでなく広く県民も利用できるデータベースをめざす。
ひとはく生物多様性の森を活用した市民活動・環境学習支援	深田公園の当館管理区域に位置する残存林および人工林で現在行っている里山管理および施設管理を継続し、兵庫方式の里山管理の見本林として整備する。また里山の代表的な植物を観察できる場所に整備する。安全管理上の問題もあるため、完全一般公開とはせず、里山活動を行う市民団体や行政、企業向けのセミナーや学校団体等の環境体験学習等で活用する。
三田市南公園 まちなかり山保全プロジェクトの支援	三田市が策定した南公園の里山公園管理計画である「まちなかり山基本方針」の実現を支援するための、人材育成プログラムに対する講師派遣やコンテンツ提供、育成された人材で結成される活動団体への支援を行う。また整備された南公園を活用して、ひとはく独自の環境学習プログラムの実施（主に特注セミナー）を検討する。
東お多福山草原保全・再生プロジェクトの推進	東お多福山草原保全・再生研究会が進める、草原保全・活用事業を支援する。また草原保全に関する研究成果を得る。東お多福山草原生物多様性ガイドの養成を進める。協力者との連携を密にすることで、六甲山に関わる行政への支援のパイプを確保する。
生物多様性協働フォーラムの枠組みを活用した生物多様性の普及・啓発、研究開発	平成 23 年度より実施している生物多様性協働フォーラムの枠組みを活用して、生物多様性の主流化に資する研究会開発を行うとともに、研究成果の公表、普及啓発活動を展開する。
山陰海岸における海浜植物・海浜植生の保全推進	山陰海岸に生育する海浜植物の保全に向け、野外調査等を行う。データは学会・論文での発表のほかセミナーや展示で活用する。
播磨灘沿岸における塩湿地植物・塩湿地植生の保全推進	播磨灘沿岸に生育する塩湿地植物の保全に向け、野外調査、発芽試験、栽培試験等を行う。データは学会・論文での発表のほかセミナーや展示で活用する。
名勝慶野松原における海浜植物・林床植生の保全推進	慶野松原（南あわじ市）の生物多様性保全に向け海浜植物の生態や林床植生の組成・構造を調べる。
兵庫県における重要植物群落の現状把握と保全推進	兵庫県内の重要植物群落の現状を把握し、環境施策や森林整備事業の企画立案に必要な基礎資料の充実を図る。収集した植生写真や植生調査資料はセミナーや展示で活用する。
DNA を長期保管できる生物標本作成方法の開発	標本の多面的機能を創出する一環として、標本中では通常短期間で劣化する DNA 情報の長期保管するための技術開発をする。
姫路市の花サギソウにおける遺伝子汚染の実態解明	姫路市の花に指定されているサギソウについて、過去に生育地への植え戻しが報告されている。このように遺伝子汚染の実態を解明し、サギソウの保全に活用する。
絶滅危惧植物の遺伝資源サンプル収集	兵庫県に生育する絶滅危惧植物を中心に、遺伝解析用のサンプルを収集する。将来世代がこうした遺伝解析用サンプルを解析できるように、博物館における恒久的な収蔵を目指す。
生物系標本庫（植物）の資料整理とデータの公開	生物系収蔵庫における植物標本の管理と利活用の促進をはかり、未収集コレクションの取得と整備につとめる。これらの資料をデータベース化して、公開可能な標本データについては、当館 HP や GBIF 等で公開していく。
高次脳機能障がい者にもわかりやすい放送音声の視聴実験	開発した DAISY 形式を中心に失語症者など高次脳機能障がい者に〈視聴〉していただく。
アフリカ中央部（カメルーン、コンゴ共和国など）の既存収集品の整理	すでに個人的に科研費その他の外部資金で収集した霊長類学・自然人類学に関わる哺乳類（骨格、皮）、植物（さく葉標本、果実の乾燥標本）、その他の資料を収蔵可能なように整理し、順次、収蔵する。
インドネシア・パンガンダラン自然保護区のシルバールトン長期データの解析	辻 大和さん、Erri Megantara さん、Bambang Suryobroto さんたちが中心となって現地調査を行い、20 年程度の長期調査を取りまとめる。三谷と渡邊邦夫さんは研究のアドバイスをを行う。

言語音がわかりにくい高次脳機能障がい者とともに作る生涯学習施設の放送音声	高次脳機能障がい者の協力の下、災害情報や緊急避難情報など放送に適した〈絵・文字・音声〉を探り、実用化をめざす。
「深田公園植物情報」展示等による演示プログラムの試行	4 階ひとはくサロンから見える範囲での植物を観察する場所やポイントなどの情報を 1～2 ケ月ごとに「深田公園植物情報」として内容を更新する（専用展示台によって、ひとはくサロンで展示）。また、深田公園を使って植物を対象とした演示プログラムを試行する。
年配者と地域の子どもをつなぐプロジェクト	年配者と一緒に、地域の小学校や児童館などへ行って自然、環境や生きものについてのプログラムを実施しながら、年配者と地域の子どもたちがコミュニケーションする仕組みを検討する。